

第三百八十八回 青葉会

平成三十年八月二十三日(木) 午後六時〜九時 文京区民センター

〈選者〉

〈出席者〉

〈投句〉

〈紙上選句〉

《互選句》

- ◎ 川口孤舟
- 今井紀久男 大林猛 柿崎忠彦 川口孤舟 久米五郎太 小西弘子 在間千恵
- 中野一灯 山崎亜也
- 伊賀山そらお 小早健介 朱牟田恵洲 土谷堂哉 豊田ゆたか 古田昇 星田啓子
- 宮内規雄 山内天牛 山田けい子 渡邊盛雄
- 赤田堅 安部眞希子 楠田彦十 庄司龍平 高橋敏郎 早川允章 福島正明
- 村田くに子 山本三恵

六点

五点

四点

三点

二点

- ◎ 涼み処と図書館の戸に貼つてあり
新盆(にいぼん)に帰る故郷や無人駅
裏返す手のひら揃ふ阿波踊
箸にまだ杉の香のあり新豆腐
句を以て句友を送る夏の葬
盆の月逢ひたい人は皆彼方(あちち)
響かない首相のことば原爆忌
進駐軍も浮浪児も死語敗戦忌
蟬黙(もど)し蚊さへ飛ばざる大暑哉
かなかなやコダクルームに染まる夕
みんみん鳴く癌の完治を祝(ほ)ぐ如く
豊漁に戻るを祈り初さんま
焰(ほのお)星月と大空分ちをり
夜釣りする舟の頭上の天の川
遠雷や耳そば立つる放ち馬
◎ 今年又父母が乗るかや茄子の牛
人情嘶歌丸偲び涼新(あじた)
背広着る現役眩し残暑かな
サラセンの翼をおりて今日の秋
(アブダブのエティハド航空)
近づきし火星とともに秋始め
◎ ひしやげたる水筒の穴敗戦日
骨(こ)揚げの眼を噴水に冷ましたり
遺されし母の夏服手を通す
炎天を一人投げ切り嗚呼涙
◎ 白桃や百一歳のおちよぼ口
色褪せしこけしに鳴れり鉄風鈴
語り部は蝦夷(えみし)の裔よ海霧(じり)岬
土用あい葉草を吊る庫裏庇(ひさし)
◎ 勤行の太鼓に競ふ蟬しぐれ
水シヤワー浴びてなほ汗家事の後(あと)
炎昼の真つ只中の応援歌
人寄るに暫く振りに西瓜買ふ
- 天牛 (眞・猛・忠・龍・正・三)
- 亜也 (猛・彦・灯・允・正・く)
- 孤舟 (眞・忠・五・千・く)
- 全 (堅・千・允・亜・く)
- 弘子 (紀・忠・孤・敏・允)
- 忠彦 (堅・紀・龍・敏)
- 千恵 (眞・弘・敏・正)
- 恵洲 (紀・孤・正・允・)
- 全 (猛・千・允・亜)
- 亜也 (紀・五・正・三)
- 天牛 (孤・五・弘・敏)
- 健介 (千・龍・三)
- 堂哉 (五・灯・亜)
- ゆたか (忠・孤・弘)
- 一灯 (孤・五・允)
- けい子 (忠・孤・彦)
- 紀久男 (忠・敏)
- 五郎太 (眞・亜)
- 全 (紀・正)
- 全 (紀・龍)
- 弘子 (孤・灯)
- 全 (孤・紀)
- 千恵 (紀・く)
- 全 (猛・敏)
- 堂哉 (孤・彦)
- 一灯 (彦・く)
- 全 (紀・三)
- 全 (彦・弘)
- 啓子 (孤・亜)
- 全 (紀・弘)
- 規雄 (忠・弘)
- 亜也 (眞・龍)

一点

八朔やきりりとめかす芸妓連

けい子 (五・三)

(名古屋の綺麗所)

脱皮場所探す若蟬道渡る

天牛 (紀・灯)

富士山頂より暑中見舞いが届きけり

盛雄 (真・紀)

炎天や一球ごとに声囁らし

そらお (紀)

(高校野球) (金足農業高校)

新盆の刻む名の増ゆ共同墓

紀久男 (忠)

無慈悲なり!被災地数度(す)も大出水

全 (猛)

処暑なるやサイレン鳴らず閑静に

全 (く)

冷房の芝居小屋はね帰路遠し

全 (忠)

雑草や暑熱糧に繁茂せり

全 (堅)

あら嬉しこの暑熱に食欲あり

全 (紀)

涼(りよう)寄越す隣の扇子映画館

全 (千)

冷(れい)しゃぶに色濃き野菜夏料理

全 (く)

熱と雨異変の七月やつと過ぎ

忠彦 (紀)

氷菓待つ客列なしてうだり顔

全 (千)

水バケツ置いて我が家の花火大会

全 (灯)

事故の場に二輪の供花盆の朝

全 (灯)

願ひ事託す間もなく星流る

孤舟 (堅)

蟬時雨ミノスの王の時もまた

五郎太 (紀)

(クレタ島ミノス文明遺跡)

籐筵きりりと締むる手打蕎麦

弘子 (堅)

休肝日延ばし旨酒秋の風

健介 (堅)

処暑到る句帖の句数(かず)増えぬまま

恵洲 (紀)

◎ 砂浜に残る温もり天の川

堂哉 (孤)

甲斐駒ヶ岳(かいこま)の空深まりぬ葡萄狩

一灯 (垂)

富士清流といふを食む新豆腐

昇 (三)

豪雨被災の月命日や広島忌

全 (紀)

(七月六日の西日本豪雨の被害に親戚二人が犠牲に)

豪雨痕ものともせずに鵜飼舟

啓子 (紀)

(愛媛県肱川で鵜飼再開のニュースを聴いて)

炎帝やごくごく水飲む白き頸(くび)

全 (彦)

客絶えてさつさと仕舞ふ蕎麦屋哉

亜也 (龍)

ゆびさきの仄かな色気阿波踊

盛雄 (猛)

大文字を映すドローンや平成了(ちひ)

全 (紀)

●次回青葉会

九月二十七日(木) 午後六時〜九時 文京区民センター

▲当季雑詠各自五句 投句は二句

十月二十五日(木) 午後一時半〜

10月以降 お昼(午後)の句会に変更です